

平成31年4月26日

亀岡市議会議長 齊藤 一義 様

議会運営委員会委員長 木曾 利廣

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の結果について、下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 平成31年4月16日(火)・17日(水)
- 2 派遣場所 山口県山陽小野田市議会 及び 広島県呉市議会
- 3 事 件 山陽小野田市議会
議会の活性化について
議会政策討論会、議会市民懇談会、議会カフェ 等
呉市議会
議会の活性化について
災害発生時の対応要領、議事堂探訪ツアー、議会図書室の整備 等
- 4 視察者 (派遣委員) 木曾利廣、菱田光紀、三上泉、山本由美子、
赤坂マリア、福井英昭、西口純生
(派遣議員) 齊藤一義議長、藤本弘副議長
(事務局随員) 山内事務局長、鈴木議事調査係長
- 5 概 要 別紙のとおり

議会運営委員会調査結果概要

山陽小野田市議会（平成31年4月16日（火）13:30～15:15）

議会の活性化について

議会政策討論会、議会市民懇談会、議会カフェ等

1 視察の目的

山陽小野田市議会は、平成30年度に発表された日経グローバル誌の議会活力度調査において、総合第4位と高い評価を得られている。分野別に見てみると、「公開度」「住民参加」「議会運営」において、それぞれバランスよく評価点を重ねられており、総合的な議会活性化に取り組まれてきた。特に、議会政策討論会、議会市民懇談会、議会カフェなどに積極的に取り組まれており参考にする。

2 施策等の概要（主な項目）

○議会政策討論会について

<内容>

- ・市政に関する重要な政策・課題に対し、議会として政策を立案し提案していくため、全議員により議会政策討論会を結成している。これにより、議会としてさまざまな市の課題に対し積極的な関わりを持ち、車の両輪としての活動のひとつとしている。

○議会市民懇談会について

<内容>

- ・より開かれた議会を目指し、議会が庁外の会場に出向き、市内で活動する団体や10人以上の市民グループ等と特定のテーマに沿って自由に意見や情報を交換している。

○議会カフェについて

<内容>

- ・市民が参加しやすいよう、リラックスした雰囲気をつくり「議会カフェ」を開催している。議会カフェでは、市民に対して議会からの活動等の報告を行うとともに、自由に意見交換を行っている。その手法としては、報告テーマを常任委員会ごとに設定し、担当議員を決めて実施する方式を採用している。

3 委員の意見等・考察

○議会政策討論会について

- ・市政に関する重要な政策・課題に対して、議会として政策を立案し提案する議会政策討論会を、全議員により結成されている。二元代表制の一翼を担う議会として、市政の課題に対して積極的に関わるよう本市も取組むべきと考える。
- ・議会として政策提言能力を高めるために、政策について自由に語り合う場があることは大変大事である。
- ・本市議会の政策研究会の運営を考えることで、機動的に的確な議論ができるのではないかと。
- ・政策討論会について規定し、意見を出し合うことを念頭においた討論会として、立案能力を高める取組みをされている。
- ・重要課題について、全議員が共通認識を持ち、取組めることが大きいと感じた。

○議会カフェについて

- ・議会報告会やわがまちトークと同じ趣旨の取り組みでも、工夫することでまったく雰囲気の違いのものになる。ファシリテーターの研修も行き、小グループで意見を出せるよう、工夫されていたので、大いに生かせるものである。
- ・参加者を増やすために、ポスターを公共施設に貼るなどの取組みは参考となった。
- ・議会から変わる意識を持たれている。リラックスできる雰囲気づくりに努め、参加する議員の数を多くしないようにする等、参加しやすい環境に配慮されている。
- ・リラックスできる雰囲気づくりに努められているが、参加者の固定化解消につなげるのは難しいと考える。今後、形式や名称の変更を工夫し、議会報告会を実施する必要があるのか、あらためて検討すべきと考える。

○議会市民懇談会について

- ・亀岡市議会でもわがまちトークを開催しているが、議会で議論があったことを報告するよりも市民意見を吸い上げる広聴にシフトしている。共通のテーマで解決に向けて話合うトークと、地域課題や要望を聞く機会は分けることが必要である。

呉市議会（平成31年4月17日（水）9:30～11:30）

議会の活性化について

災害発生時の対応要領、議事堂探訪ツアー、議会図書室の整備等

1 視察の目的

呉市議会では、他の市議会と比べて足りない部分は何かを追求され、市民の議会離れを防ぐこと等を議員間で論点とし「議員活動の見える化」「審議過程の見える化」「議員の質問力向上」を目指して、議会の活性化に取り組まれている。その中においても、災害発生時に議会が迅速に対応する要領の策定や、市民が議会を身近に感じることができる議事堂探訪ツアー、また、マニフェスト大賞優秀成果賞を受賞された議会図書室の改革等の取組みを参考にする。

2 施策等の概要

○災害発生時の対応要領について

<内容>

- ・従来から自然災害が多く発生してきたことを踏まえ、平成28年に議会として災害発生時の議員の対応等を規定した要領を整備された。平成30年7月豪雨時においては、この要領や別途作成されたフロー図に基づき迅速に対応された。

○議事堂探訪ツアーについて

<内容>

- ・市民を議場に招き、議員自らが議会の仕組みを説明する等、開かれた議会を目指した取組みの一環として実施されている。

○議会図書室の整備について

<内容>

- ・議会図書室における常駐司書の配置や大学図書館との連携により、議員への積極的な情報提供に努められている。この取組みにより、第11回マニフェスト大賞優秀成果賞を受賞されており、全国的にもトップレベルの議会図書室を整備することで、「強い議会」を支えるための基盤づくりを实践されている。

○その他

- ・新議場システムの整備

3 委員の意見等・考察

○災害発生時の対応要領について

- ・災害時の情報に関しては、議会事務局を經由して議員へ提供する等一元化されている。本市においても、災害時の議員対応要綱を早急に作成するよう協議すべきと考える。
- ・災害が発生した時に、議会としてどう対応するのかについて、しっかりとルールづくりされている。議長の判断で対策委員会を設置し、各地で待機する議員の安否確認や各議員からの情報、問い合わせ等を、議会事務局で一元化し、配付した端末に発信されている。そのようなルールづくりをすべきである。
- ・被害状況や災害対策本部の会議内容について、全議員が端末からの情報により、共通認識することができ、理事者や議員の二次的対応が排除できる大きなメリットがある。執行部とともに、災害対応を最優先するために会議の中止や会期短縮等、議会としての具体的な取組みができるため、規定整備が必要だと感じた。
- ・議員が得た地域の情報を、議会事務局で集約する手法は素晴らしく、本市議会でも検討していくことが必要である。
- ・災害発生から議員のきめ細かい活動指針が示され、混乱の中でも適切に活動できる仕組みをつくられており、亀岡市議会もマニュアルをつくるべきだと感じた。また、議員が選出されていない地区や様々な災害に対応できる、独自の対応のあり方に踏み込むべきである。
- ・情報伝達、共有が素早く行えるという点で、端末の必要性についても検討すべきだと考える。

○議会探訪ツアーについて

- ・議場を解放する取組みについては、検討してもよいかと思う。

○議会図書室の整備について

- ・司書配置や、分野・テーマごとの書籍配置により、議員の質問力向上に大きな効果が表れると感じた。
- ・議会図書室の充実については、司書に専門性を持たせて情報を提供するようにしている。予算措置や人的配置が必要なため、すべてを実施することはできないが、考え方としては大変参考になった。
- ・蔵書の充実や大学との連携を図り、専門的なレファレンス機能の向上に対応できる図書室を目指すべき。

- ・電子表決システム、親子席、委員会中継等について、優先的に進めるべきことを考えてから検討すべきである。